

## 散歩の文化

大島忠剛

国際協力機構（JICA）の仕事でタイはチェンマイの土地区画整理事業の指導に派遣された。土地区画整理では当然、歩道の計画も必要である。

歩道とは人が歩く道であるが、タイのチェンマイでは歩道を歩いている人はめったに見かけない。たまに見かけると、大抵は日本人か西洋人である。歩道を散歩していると、ツクツク（三輪タクシー）や赤い乗り合いバスがクラクションを鳴らして五月蠅く乗車を誘う。彼らにしてみれば、このくそ暑い中、金持ちの日本人がテクテク歩いているのが理解できないらしい。チェンマイでも急激に増えた車の排気ガス、野焼きの煙が立ちこめて大気汚染も甚だしい。さらには、舗装ブロックがガタガタで躓いたり、足が挫けそうになる。切下げ段差も大きく、マンホールの蓋が外れたまま、鉄筋が剥き出しで落とし穴になっていることもある。これでは散歩も命がけである。

歩道を歩く目的には、いろいろあると思うが、街の中では通勤、通学、買物などの用事、郊外であれば散歩、散策、ジョギング、買物などであろうが、このうち散歩、散策はタイの人達には分かりにくいらしい。

先日、タイ南部のサムイ島へ行った。朝早く海辺に出てみたら沢山の西洋人が相当な早足で砂浜を歩いていた。歩幅も広く競歩みたいな速さである。健康には良いかも知れないが、日本人が「浜辺の歌」などロザミながら歩く散歩ではない。散歩・散策の好きなのは日本人だけらしい。

「散歩」を英語の辞書を引くと、まずは「walk」とあるが、「歩行」に近く移動手段のみを指しているようだ。「stroll」は、「ぶらつく、放浪する、ぶらぶら歩き、散歩」とあり、まだ感情まで表現されていない。「wander」は、「歩きまわる、さまよう、ぶらつく、迷う、横道にそれる」などがある。外見の行動は似ているかも知れないが感情移入の点ではいまいちである。類義語を見ると「wander」は、目的、道順など無くゆっくり歩き回る。「ramble」は田舎をぶらぶら歩く。「rome, rove」は広い地域を目的なく気ままに歩き回る。「lounge」もやはり、ぶらぶら歩く、散歩とある。

タイ語で「散歩する」は「ドゥーンレン」と言う。「ドゥーン」は歩く、「レン」は遊ぶとか「チョイト」などで、英語の「play」の意味に近いらしい。

「散歩、散策」はそもそも文化の背景が異なる国で文字で対応させることに無理がある。

散歩で近所の人に出会ったときの挨拶でも、お国いろいろだ。

「こんにちは、よいお天気ですね、お出かけですか?」、「はあ」、「どちらへ?」「はあ、ちょっとそこまで・・・」。お国によっては、「朝飯食べましたか・・・」が挨拶であるそうだ。タイでもそう云う挨拶があるらしい。

散歩に目的を加えたとしたらどんなことが考えられるだろう。最も多そうなのは健康だが早足なら効果があるが、のんびり歩くのでは効果がないらしい。気分転換（リフレッシュメント）ならありそうである。

歩道の話が、いつの間にかぶらぶら散歩話しになってしまった。

タイの土地区画整理ではタイに見合った歩道を作るしかあるまい。

大島さんは、昭和 35 年入社で新幹線二川工区工事に従事され、その後住宅公団で宅地開発、区画整理をされた。JICA に移られてから海外派遣指導員で平成 18 年から 2 年間タイのチェンマイに派遣され、土地区画整理事業を指導、今年 3 月帰国された。